

# 会 議 録

## 1 会議名

平成 30 年度第 7 回高土区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

(1) 今後の意見交換会について（公開）

(2) 自主的審議事項について（公開）

## 3 開催日時

平成 30 年 11 月 8 日（木）午後 6 時 30 分から午後 8 時 20 分まで

## 4 開催場所

高土地区公民館 2 階 中会議室

## 5 傍聴人の数

なし

## 6 非公開の理由

なし

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子  
建入一夫、日向こずえ、細谷八重子、横山とも子（欠席 3 人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

## 8 発言の内容（要旨）

### 【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市自治地域区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【飯野会長】

- ・挨拶

### 【田中主事】

- ・上越市自治地域区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

### 【飯野会長】

- ・会議録の確認者：建入委員

次第3議題「(1) 今後の意見交換会について」に入る。事務局に説明を求める。

**【田中主事】**

- ・資料1により説明

**【飯野会長】**

今ほどの説明のとおり、「高士の未来づくり懇談会」、「三郷区地域協議会との意見交換会」、「雄志中学校区の地域協議会との意見交換会」の3つの意見交換会の実施についてだが、まず、「高士の未来づくり懇談会」は、平成26年から続けてはいるが、参加者の固定化や意見のマンネリ化等が現状となっている。また、「三郷区地域協議会との意見交換会」については、三郷区地域協議会からの申し出もあり、2つの意見交換会を実施することは難しいと考えている。「高士の未来づくり懇談会」についてもどのように考えているのか意見を求める。

**【飯野正美委員】**

資料1の検討要素内に「明確な目的がないと昨年度と同様の意見交換になる」との記載があるが、明確な目的があれば「高士の未来づくり懇談会」の実施は可能と考える。しかし、これまでの意見交換会の内容を見る限りではマンネリ化しているように思う。だが、昨年度から自主的審議で協議している空き家をテーマに意見交換してはどうか。また「三郷区地域協議会との意見交換会」については、高士区と共通のテーマとなっている人口減少について意見交換をして、何を得られるのか疑問がある。お互いに地元の話をして終わってしまうように思う。そのため明確な目的を持てば「高士の未来づくり懇談会」との意見交換も良いと考えている。

**【日向委員】**

「高士の未来づくり懇談会」との意見交換は自分もマンネリ化していると感じており、地域協議会の中で協議テーマを決めることが大変である。時間も限られており、話し合えるテーマは1つ程度となる。地元のことを地元の住民から聞くことはとても大事なことではあるが、今年度は隣接している三郷区から申し出も来ているため、人口減少についてどのように考えているのか、人の意見を聞くことも良いと考える。

**【飯野会長】**

参考までに近隣の地域協議会の中では、牧区や清里区は年に数回意見交換を行っており、今年度からは板倉区も参加すると聞いている。高士区では雄志中学校区として

津有区・諏訪区の3区で意見交換を実施しているし、頸北に行くと頸城区・大湊区・柿崎区・吉川区が合同で開催している。

**【田中主事】**

事務局より補足である。「高士の未来づくり懇談会」は地域の住民に開催を周知するため、12月中に明確なテーマを決める必要がある。また地域協議会としての方向性がなければ、地域住民に意見を聞いても地域協議会の考えを述べる事が出来ず、意見交換が堂々巡りとなってしまうことが考えられる。

**【飯野会長】**

他に意見はあるか。

**【横山委員】**

正直、自主的審議が暗礁に乗り上げている状態であるため意見交換を行っている状況ではない。しかし、地域協議会の開催が月1回のため、どうしても協議が進まない。実際に空き家を活用するにしても地域おこし協力隊などの高士区の中で専門に動いてくれる人や仕事として動いてくれる人がいなければ、どんなに協議しても進まないと思う。空き家の活用に関しても本気になって行動しなければ情報は集まらない。情報を一覧にまとめる等の行動を行うためにどうしたら良いのか現段階では分からない。空き家対策を進め、実際にデータが出てもどんな人に入ってもらえるのか。また、人が来るのかも分からない。どんな魅力を感じて来るのか、来た人をどのように受け入れていくのか等を具体的に進めてなければならない。残り2年の任期の中でどんどん話を進めていかなければいけない。旗振りをしてくれる人や専門で行ってくれる人がいれば、議題が進み、データ収集や交渉が出来ると考える。あまり委員から意見が出ないということは、地域協議会自体がマンネリ化してきているとも考えられる。他の地域で何か先進的なことを実施していれば参考になると思う。また研修に行くことは一番参考になると思う。同じような環境で成果を出せている所に出向き話を聞いてはどうか。自分は先週、吉川区大賀で行われた映画鑑賞会に行った。昔は大賀には集落が28あったが、現在は3つになってしまった。しかし、最近2軒が移り住んだ。1組は前回の地域協議会で事務局より配布された「住もっさ上越」にも掲載されていた夫婦である。吉川区で酒造りをしている夫とパタンナーの妻が空き家ではなく家を見て暮らしており、見て凄いと感じた。本当に山の中といえる場所に家を見て、子どもを育てている。大賀は普門庵<sup>ふもんあん</sup>という昔の尼寺の庵が現在は公民館になっており、住んでい

る人達が楽しみながら本気でイベントを行っている。自分たちも本気でやらなければいけないと感じたが、中途半端ではなかなか進まない。また、地域協議会のような場で話し合っても堅苦しくなってしまうなかなか本音が出てこない。以前に委員数名と公民館で飲みながら話をしたが、そのような時は本音が出てくる。どうしたら一歩二歩と踏み込んだ具体的な話ができるのかを考えている。

**【田中主事】**

今ほどの横山委員の意見にもあったように、実行部隊がないと何かをするということが具体的にはなかなか出来ない。地域協議会は市の諮問機関という立場であり、考えることが主な役割となるため、実行部隊とは異なる。諏訪区では地域協議会の自主的審議事項から発展し、移住促進諏訪の会が立ち上がった。地域協議会では具体的な活動を実行することが難しいため、ジレンマが生じてしまう。「三郷区地域協議会との意見交換」については、お互いにモヤモヤした中で話し合いをしても成果はないとの意見も出たが、三郷区は自主的審議事項のテーマが決まり、協議を始めたばかりのため、先に始めた高士区の意見を聞きたいとの背景で申し出があった。高士区地域協議会として、三郷区地域協議会と意見交換をして得られるメリットと自主的審議に係る時間のどちらを優先するか決定してほしい。先ほど、どちらの意見交換会を実施するのか決定してほしいと説明したが、どちらも実施しないという選択肢もある。

**【飯野会長】**

どちらも実施するという選択肢もあるのか。

**【田中主事】**

どちらも開催した場合、意見交換会とまとめて4回分の地域協議会の開催が必要となり、後のことを考えると難しいと考えている。これまでの意見を聞いていると、実施するメリットをあまり感じられない、実施する時間がないという意見があるため、どちらも実施しないという選択肢を提示した。つまり、どちらか1つを実施するか、どちらも実施しないの選択肢になる。

**【飯野会長】**

意見交換について、どちらを実施するのか、またはどちらも実施しないのか意見を求める。地域協議会としては、隣接する地域協議会からの申し出を断ることも良くないと考えている。遠くの自治区や他県の協議会からの申し出を断ることとは意味が違う。正直断りにくさもあるが、割り切って断ることも1つである。

### 【建入委員】

自分も断ることはどうかと考えていた。意見交換する以前に、断るのは失礼な感じがする。三郷区地域協議会は解決策を見い出せず、同様のテーマを掲げている高士区  
の意見を参考にしたいのだと考えていたが、協議を始めたばかりとのことであり、高  
士区がメリットを求めても仕方がないと考える。「高士の未来づくり懇談会」につい  
ては、実施するかは別として、何を求めるのかをはっきりと決めなければいけないと考  
える。

### 【青木副会長】

今後何をするかについては、実際に何かに取り組んでいる先進地等を参考に  
するしかないと思う。上越市内の先進地を参考にすることが手っ取り早いと思う。また、三  
郷区と意見交換を実施するのであれば、お互いの意見を出し合うのではなくテーマを  
決めた話し合いをしなければ話は進まないと思う。先日も三郷・諏訪・高士地区の町  
内会長会を行ったこともあり、やはり無下には出来ないと思う。やっても成り立たな  
いではいけないと思うため、実施するのであれば何かしらテーマを絞ってはどうか。  
例えば、上越市で行う方向性を市の担当課から話を聞くことを交えても良いと思う。  
そうすれば市としても同時に2つの地域協議会に説明が出来るため効率が良いと思う。

### 【金子委員】

高士区は津有区・諏訪区との協議は行ったことがあるが、三郷区とは行ったことが  
ない。テーマが同じこともあり、行わないよりは行ってみてはどうかと考える。また、  
「高士の未来づくり懇談会」は、テーマを絞って話し合うべきと考える。例えば、空  
き家や旧高士中学校の跡地をテーマとして話し合ってはどうか。しかし、空き家につ  
いては協議がまだ成熟しておらず、もう少し成熟してからの意見交換が望ましいと思  
うため、次年度でも良いと考えている。今年度は「三郷区地域協議会との意見交換会」  
が良いと思う。

### 【飯野会長】

他に意見はあるか。

(発言なし)

採決を取る。今年度は「高士の未来づくり懇談会」との意見交換会は見送ることに  
賛成の委員は挙手願う。

(全員挙手)

次に、「三郷区地域協議会との意見交換会」の実施に賛成の委員は挙手願う。

(全員挙手)

全員賛成のため、「三郷区地域協議会との意見交換会」の実施で決定する。詳細については事務局から調整してもらう。

【田中主事】

事務局で意見交換の形式やテーマも含めて調整し今後報告する。

【飯野会長】

何も決めずに意見交換をするよりは何かテーマがあったほうが良いと思う。

【田中主事】

11月下旬に三郷区地域協議会が開催されると聞いている。三郷区担当の事務局から開催する旨を報告してもらい、テーマも含めて調整していく。先方から申し出があったため、何かしらの聞きたいことがあると思う。実施時間については、通常地域協議会と同様の時間帯になると考えているが、随時報告する。

【飯野会長】

次に、「雄志中学校区地域協議会との意見交換会」について協議していく。例年、中学校区が同じことと地域活動支援事業を同時に支援した経緯もありこの数年間意見交換会を実施してきた。今年度は生徒との意見交換会を実施しないこともあり、3区での意見交換会を実施するかについて決定していく。他の区は決定しているのか。

【田中主事】

まだ決定していない。

【青木副会長】

移住促進諏訪の会の活動は進んでいるのか。

【野口係長】

空き家の調査や先進地への視察は行っているため、知識は積み上がってきていると思う。しかし、目に見える成果となるまではまだ時間がかかると考えている。

【飯野会長】

組織を作って動いていることは、高士区より進んでいると考える。中身より組織を立ち上げていることに意味がある。

【野口係長】

情報交換は行っても良いと思う。

### 【青木副会長】

先ほど地域協議会の中で実際に動くことは難しいとの話があった。高士区であれば高士地区振興協議会になると思うが、これといった体制が出来ていないため難しい。

高士区地域協議会として、このようにしたいということを高士地区振興協議会や町内会長会等に投げかけをしていかなければいけないと思う。移住者がどうして移住に至ったのか等を聞くことが出来れば参考になると思う。諏訪区とも意見交換の場を作ってはどうかと考える。

### 【飯野会長】

今回の議題には上がっていないが、前回配布された資料に記載されていた高士小学校関係の問題も今後大きな問題になって来ると考えている。常にお互いが情報を共有できる環境が必要と考える。3区だけの問題ではないと思うが、やはり隣接した自治区で空き家問題や学校問題も含め、常に情報交換しておいた方が良いと考える。

### 【日向委員】

自分は三郷区の話よりも諏訪区の話に興味がある。高士小学校よりも児童が20人少ない状況の中で、地域として子ども達にどのような活動をしているのかを聞きたい。諏訪区は人口減少対策に対してだけでなく、新聞に掲載されているような地域で盛り上がる行事が多い印象である。諏訪区では人口を増やそうという気持ちが高士区よりも熱いように感じるため、直に話を聞けるのであれば3区での意見交換会を実施したいと考えている。

### 【青木副会長】

諏訪区で何かしらの成果が出ているのであれば、機会を作って話を聞いてみたいと思う。

### 【飯野会長】

特に諏訪区では川室記念病院の理事長が中心となり、様々なイベント等を行い地域住民も参加している。高士地区でも岩の原葡萄園が中心となり様々なことを行っている。しかし、諏訪区は小さな区であり児童数も少ないため、危機感が高士区よりも強いと思う。諏訪地区町内会長協議会の会長が諏訪小学校の複式学級でどのようなことを行っているのか見学に行ったと聞いている。高士区でも複式学級が始まったが、見学に行っていない自分が聞くことも何であるが、見学に行った委員はいるか。どのようなことを行っているのか確認することも大切であると感じた。

それでは、意見も出そろってきたため、「雄志中学校区の地域協議会との意見交換会」について採決を取る。開催に賛成の委員は挙手願う。

(4人挙手)

出席委員の半数であるため、会長として決定する。自分としては実施に賛成であるため、実施することとして良いか。

【飯野正美委員】

確認であるが、諏訪区が参加する場合は高士区も参加と言うことか。

【飯野会長】

高士区で実施すると決定しても、他の自治区が実施しないと決定することもある。

【飯野正美委員】

例えば、津有区は実施すると決定したが、諏訪区が実施しないと決定した場合は高士区としてはどうするのか。

【飯野会長】

しかし、それは相手のある話であるため仕方がないと思う。

【田中主事】

3区の内、実施するとした区が2区であった場合も実施するか否かについて、残りの2区に確認を取り、3区でなければ実施しないと意見が出た場合は見送ることとなる。

【飯野正美委員】

自分は3区であれば実施に賛成である。

【田中主事】

現段階では、3区での実施が前提と考えている。

【飯野会長】

以上で次第3議題「(1) 今後の意見交換会について」を終了する。

次に次第3議題「(2) 自主的審議事項について」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料2、3により説明

【飯野会長】

それでは協議に入る。前回の地域協議会では「空き家の活用方法」について協議した。今回の地域協議会では資料3に記載の地域協議会として出来ることの中から、何

が出来るか、何をしていくかについて協議する。意見のある委員の発言を求める。

**【飯野正美委員】**

スタートラインの方向性が問題となって来る。こうなったら良い、どうなったら良いといったイメージは頭には浮ぶが、実際に地域協議会として実施できるレベルの話には現時点では達していないように思う。まずは実行部隊を作ることがスタートラインであると考え。こうなったら良いというビジョンや結果的にこのようなことがしたいとのイメージはあるが具体的なレベルには達していないため、どう思うかと聞かれても正直返答に困っている状況である。

**【飯野会長】**

先ほども話が出たが、諏訪区では一步も二歩も前進しており、専門の組織を立ち上げて動いている状況である。

**【田中主事】**

実行部隊の話で補足である。資料3に赤字で記載したが、地域おこし協力隊は国の補助金を利用して一般の方を市の職員として雇い地域で活動してもらう制度である。3年間の任期中は、市は国からの支援を受ける。地域に馴染むためや地域のために活動し、任期終了後もその地域に住んでもらうことが制度の趣旨である。地域としてのメリットは、3年間は専門的に動ける人に来てもらうことができる。

**【小林委員】**

似たような話で、以前長野県小布施町で町おこしをした学生の講演会に行ったことがある。この様な人の講演会を行うことは出来ないのか。

**【飯野会長】**

小布施町は早稲田大学の研究室が携わっていると記憶している。

**【小林委員】**

全国から募集して、来た人たちが住める場所も確保した。小布施町が援助したと記憶している。

先ほど横山委員の話にあった吉川区大賀は本当に山の中である。しかし、高士区は山奥でもなく空き家もそれほど古くはない。高田の本町には外国人が昔風の建物に手を加え、店を営業しながら住んでいる所もある。高士区の空き家自体に魅力がないように感じる。もっと山奥であれば都会の人が魅力的に感じてくれたかもしれない。

**【飯野会長】**

近隣の牧区高尾で月に1度開催しているお茶会も他の地区から来た人が行っている。

**【横山委員】**

その方は地域おこし協力隊とは違う。

**【小林委員】**

都会の人が魅力的に感じることは、山の中で自分が生活するということであると思う。

**【横山委員】**

吉川区の大賀は本当によくこんな所にと驚くような場所ではあるが、逆に山の中に魅力があるのだと思う。高士区は中途半端を魅力にしなければいけない。その方は、5軒しかない集落に家を建てて子どもを育てている。そのような人はどこに行っても上手くいくが、逆にそのような人たちに来てもらうことは難しい。また、それぞれの地域の地域おこし協力隊が SNS 等で情報を発信している。入る人によって違いもあり、地元が地域おこし協力隊を上手く活用できず活かされていなくてもある。悪い例ではあるが、地元の人たちが地域おこし協力隊に期待しすぎてしまい、つぶしてしまうこともある。更に3年の任期終了後の移住を過度に期待しすぎて、独身者が危機感を感じることもある。地域おこし協力隊を受け入れるのであれば、自分たちも上手に活用するための勉強をする必要があると思う。実際に地域おこし協力隊が入れば良いということではなく、実行部隊として高士区の中で実際に動ける人や動きたい人がいるのかが問題である。旗を振る人がいれば協力する人はいる。旗を振ってくれる人がいるかが問題であり、どのように探すのかも難しい。勉強しようと思えばいくらでもチャンスはある。以前、妙高市に入っていた専門の会社もあるため、専門業者から入ってもらい地域おこしを行うことも出来る。しかし、それでは話が突然飛んでしまうようにも思う。

**【金子委員】**

イメージとして、高士区内にすぐに住める状態の空き家が1軒あり、そこに地域おこし協力隊がシェアハウスのような形で入って3年間生活する。地域おこし協力隊の能力もあるが、高士区内の魅力を見つけて連携を取って行く方法を考えていく。自分は地域協議会委員になりこれまで知らなかった所を色々な人たちから教えてもらっているが、専門の人から見て、高士区はどのように映っているのか興味がある。住める状態の空き家があれば、そういうやり方も1つの方法であると思う。

**【飯野会長】**

色々な話が出たが、実際に誰が行うか、実行部隊をどうするのが問題である。

**【横山委員】**

地域おこし協力隊を申請しても、実際に派遣されるまでにはかなりの時間がかかると思う。

**【飯野会長】**

時間もかかるが、実際に高土区が該当するのかも分からない。上越市で地域おこし協力隊が入っている所は中山間地の中でも大変な所が多い。高土区のような平場の中間地のような場所に入ってくれる人以前に、行政として派遣する考えがあるかは分からない。

**【田中主事】**

地域おこし協力隊を派遣するとなった場合、実際にどのような人がどのような応募方法で来るのかというところから勉強をする必要がある。自治・地域振興課が担当課であるため、上越市のどこの地区でどのような活動をしているのか、また地域でどのようなサポートをしているのか等を勉強することも1つの方法である。

**【横山委員】**

まずは派遣される条件を調べてはどうか。どの程度の申請があり、実際に高土区が該当するのか。該当した場合、申請から派遣されるまでにどの程度の時間がかかるかを調べる必要がある。SNSを見ると、現在安塚区細野や牧区で地域おこし協力隊を募集している。市が募集がしていると思うが、募集しても来てくれるかは分からない。待っているだけではダメであり、同時進行で地元の実行部隊を作って行かなければならない。

**【金子委員】**

地域おこし協力隊は一般の人ではないのか。市の職員なのか。

**【田中主事】**

一般の人だが、市の非常勤職員という身分である。

**【金子委員】**

まずは市の担当者を交えての勉強会をしてはどうか。

**【飯野正美委員】**

地域おこし協力隊をしている人から来てもらってはどうか。

### 【横山委員】

基本的な手順や要綱は市のホームページ等を見れば分かると思う。SNS にある情報も市が発信している。募集されている地域の情報や魅力、どのような活動をしてほしいのかが記載されており、それに興味のある人が応募すると思う。

### 【建入委員】

やはり住んでいると分からないこともあるため、新しい人が新たなものを見出してくれることもある。

### 【田中主事】

今ほど希望のあった地域おこし協力隊についての勉強会は、事務局で調整し依頼することは出来る。

### 【横山委員】

小さな子どもがいる親からすると、このまま子どもが減っていき地域に小学校がなくなることへの危機感はすごくあると思う。地域協議会委員としてではなくても、親御さんたちを集めて思うことや意見等を聞いてみてはどうか。別団体となると大がかりになってしまう。意見を拾うことで希望やデータをまとめそれを基盤として実際に何が出来るのかを考えてはどうか。動かないことには何も進まない。若い人たちだけではなく、60代70代の中で率先して動いてくれる人たちがいればお茶のみなどの話の中で今後どうなってほしいのか等の意見を聞くことも良いと思う。意見交換会では、正直ありきたりな意見しか出てこないように思う。そのため、お茶飲み等による本音の話の中でデータ収集をしてみてはどうか。空き家に誘致をしても活性化していない土地では、実際に子連れの親子が移住しても定住はしてくれないように思う。危機感を感じている人は他にもたくさんいると思う。それらを上手に取りまとめて課題を見つけて行くことで一歩前に進むことが出来ればヒントが見えてくるように思う。地域おこし協力隊と同時進行で進んでいく方が良いと思う。難しい話ではなく、楽しい話や前向きな話を提案していくようなアイデアが出てくれば活性化すると思う。

### 【飯野会長】

実行部隊をいかに作り上げるのかが問題であると思う。

### 【横山委員】

正直自分の中で焦っている。自分は地域協議会委員が2期目になり、このまま今期も終わってしまうことに危機感を感じている。勉強することは良いがリアルな話でな

ければ意味がない。実際に自分が地域おこし協力隊の情報を集めてプレゼンテーションをすることは可能である。市の担当課の説明がダメな訳ではなく、写真等を活用した説明にする等のもっとリアルにイメージしやすいようなものでなければいけない。SNS を見るだけでもイメージは出来ると思う。もっと情報収集をして、必要であれば自分も資料を作るので、もう少しリアルに想像し行動に繋がっていくようなことをしていかなければ時間ももったいないように感じている。とにかく前に進みたいと考えている。

**【飯野正美委員】**

高士区を外部から見てほしいと思っている。現段階では空き家の活用から進んでいくような形になっているが、地域おこし協力隊は別の観点から見るかもしれない。

**【横山委員】**

やり方は色々あるとは思う。中間の場所は中間の場所なりのものがあると思う。

**【飯野正美委員】**

単純に地域おこし協力隊の募集をして良いのか分からない。まず募集以前に地域おこし協力隊が何をしているのかも分からない。現時点では良いイメージしか湧いてこないため、色々勉強することで次の段階に進めるように思う。

**【田中主事】**

意見書で地域おこし協力隊の派遣要請をするだけでは意味はなく、実際に地域として何をしてほしいのか、どのような人から来てほしいのか、地域は何をすべきかが明確でなければならない。基本的に地域おこし協力隊は都市圏の人が来るのが一般的である。都市圏から生活環境が全く違う田舎に来るため、地域としてどれだけのサポートが出来るのか等も入念に話し合わなければならない。仕事を依頼するだけではなく、今後高士区としてどのような方向に向かっていきたいか、そのためにどのようなことをしてほしいのかを示さなければ、地域おこし協力隊が来ても地域の賛同を得ることが出来ずに孤立してしまう。また、外から来た人と地元の人との間には最初は壁があるため、その壁をどれだけ低くすることが出来るのかも重要である。先ほど話に出た安塚区細野には現募集の前に若い男性が地域おこし協力隊として派遣されたが、1年から1年半で辞めてしまった。

**【横山委員】**

テレビのニュースでも良く報道している。地域おこし協力隊に入ったがノイローゼ

になってしまい、何をして良いのか分からずに地域で孤立してしまうケースが問題として取り上げられている。

**【田中主事】**

地域おこし協力隊に仕事をお願いしただけでは意味がなく、地域全体でサポートするくらいの意気込みでなければ地域の活性化には結びつかない。派遣要請するだけでなく、地域全体に派遣に対する協力と理解をお願いしなければいけない。

**【飯野会長】**

地域おこし協力隊とは別に、市の嘱託職員の相談員のような人材がいたように思う。

**【田中主事】**

13区と合併前上越市の一部には、集落支援員という職員がいる。

**【飯野会長】**

集落支援員は中山間地だけなのか。

**【田中主事】**

現在は中山間地がメインである。

**【青木副会長】**

1つの危機感として、先ほど横山委員の発言にあったような小さな子どものいる親御さんから聞き取りも必要であると思う。これまで高士小学校では善兵衛学習を行ってきたが、仮に小学校が統合となった場合にすべてが瓦解がかいしてしまう恐れがある。地域の支柱ともいえる小学校がなくなるかもしれないという危機を察知して、地域で団結して必要がある。

**【飯野会長】**

色々な意見を出し合っているが、堂々巡りとなり、先の見えない話となっている。

**【田中主事】**

これまでの話を整理する。地域おこし協力隊について勉強をするか否かについてと、世代別グループに分け危機感を共有する等から課題を出していく方法の意見が出た。また実行部隊をいかにして作るかが肝となっているように思う。

**【飯野会長】**

今ほどの事務局からの説明にあったように、地域おこし協力隊の派遣を要請するにあたり何をしなければならないのかについての勉強会をしてはどうかと考えている。

次に、年代別・世代別で細かいグループに分けて地域をどのように考えているのかを調査する。また地域住民に考えてほしい、組織を作ってもらいたいといっても現状では核となるものがない。地域協議会委員が委員としての立場ではなく、個人的に核となって組織を作り動く以外ないように考えている。

**【横山委員】**

危機感を感じている人が意外と少ないように思う。先日同年代のランチ会に参加したが、女性陣はあまり考えていないように感じた。危機であると伝えなければ気づかないように思った。子どもを持つ親御さんたちもとりあえず今は学校があるから良い、とりあえず今は自分の体が動くから良い程度に思っているように感じるため、このままではダメだということを伝えなければいけないように思う。

**【飯野会長】**

自分の子どもはもうすぐ卒業するから良い程度に考えているように思う。

**【横山委員】**

自分の子どもが卒業すれば良いという問題ではないことを伝える必要がある。吉川区大賀のように世帯数が大幅に減少している地域が中山間地では多くあり、高士区も別の話ではないように思う。

**【飯野会長】**

時間も過ぎているため総括する。地域おこし協力隊に関する制度等の勉強会をしなければいけないと考える。

**【日向委員】**

しかし、高士区が地域おこし協力隊派遣地域に該当しなければ勉強をする意味がない。先に該当するか否かについて調べる方法はないのか。

**【田中主事】**

担当の自治・地域振興課に確認する。

**【日向委員】**

高士区を外観的に見てもらいコンサルティングしてもらうことは出来ないのか。予算はかかり、その予算もどこから出せるか分からないが。

**【飯野会長】**

具体的な例として資料には、地域おこし協力隊の派遣要請と記載されているが、地域おこしのためのコンサルティングの派遣要請をすることは可能か。

【田中主事】

研修費として講師を呼ぶための多少の予算はある。

【横山委員】

前期にも講師派遣の話は出ていたように思う。

【飯野会長】

前期でも話は出ていたが具体的に動くことはなかった。

【田中主事】

予算的には1回限りの講師費用しかない。

【飯野会長】

1回ではなく、1年から2年の継続的な期間来てもらうことは出来ないのか。

【横山委員】

それは難しいと思う。

【田中主事】

継続的な講師派遣を要望する場合は、意見書の段階になる。

【飯野会長】

意見書を提出して大学の研究室や専門業者から継続的に来てもらい、高土区を見てもらいアドバイスを貰ってはどうかと考える。1回限りの講演会ではすぐに解決とはいかないと思う。

【横山委員】

継続的にコンサルティングが入っている地域はあるのか。

【田中主事】

自分は聞いたことはない。

【飯野会長】

継続的な講師を派遣する内容の要望書を出すことは可能なのか。

【田中主事】

それに近い形で動いているのが13区の地域おこし協力隊である。専門家ではないが地域外の人を呼び、仕事として専門的に活動している。

【飯野会長】

仕事をしてもらうということではなく、地域に対してアドバイスを貰うということである。家を建てる際の設計図のような役割である。その考えでいうと地域おこし協

力隊は大工である。設計者が必要であると考え。

そのため、行政に要望として意見書を提出することは可能かどうか問題である。

**【田中主事】**

現実的な話、高士区にのみ継続的な講師を呼ぶことは難しいと思う。

**【飯野会長】**

高士区だけではなく地域全体として、例えば雄志中学校区として呼ぶことは可能なのか、また要望して良いのかということである。

**【本間センター長】**

意見書の意味合いとしては、地域が希望することを市に要望や意見することである。叶うかどうかは別として意見書を出すこと自体は可能である。どのような意見書にするかが大事になって来るが、地域としてはこうしたい、そのために市からここを手伝ってほしいという意見書を提出することは出来る。また、地域おこし協力隊と同じような人材の派遣を要請し、結果地域の活性化に繋げていくのであれば、それに近い形の人材を要請することは可能である。

**【飯野会長】**

可能性があるのであれば、その方向も良いと思う。

**【横山委員】**

コンサルティングのようにある一定期間入るとなった場合、講師の選出が難しい。また、1回限りの講演だとしても、ただ話を聞くだけではなく、1回でも実のある話をしてくれる人材を選べばそれがヒントになることもある。高士区の実際のデータを事前に送り、それに見合った話をしてくれる人を選び、とりあえずは1回来てもらってはどうか。1回の講師を呼ぶ予算はあるのであれば、まずはやってみてはどうかと考える。以前、妙高市に地域おこし専門の会社が入っており、十日町市や三条市にも入っていた会社である。その会社の1人は山形の大学でまちづくりに関する教授をしており、定期的に妙高市に入っていた。そのように実践に即した人を選べば良いと思う。最近では上越市でもまちづくりに関係した人が主催するイベントが開かれている。様々な情報を選んで行けば、1回限りの講演でもヒントになると考える。

**【金子委員】**

講師代は出るのか。

**【田中主事】**

講師の報酬にもよるが、予算はある。

**【横山委員】**

具体的な予算が分かれば、予算に見合った講師を調べることは出来る。

**【金子委員】**

実際に講師を依頼した場合、講演に関する下調べで手間暇がかかるため報酬は安くはないと思う。

**【飯野会長】**

まだ話が煮詰まっていないため、まずは専門の講師を呼ぶか否かに意見をまとめた  
い。金銭的な問題は別として、地域協議会として講師に来てもらい講演を聞くとして  
良いか。

**【金子委員】**

市の担当職員から出向いてもらっての勉強会が良いと思う。まずは説明を聞いて高  
士区に地域おこし協力隊に近い人を派遣することは可能かどうかを確認してはどうか。

**【横山委員】**

市の担当はどこになるのか。

**【田中主事】**

自治・地域振興課の中山間地域振興係である。例えば高士区が地域おこし協力隊の  
派遣地域に該当しなかった場合、呼びたい理由を付け、高士区も派遣該当地域にして  
ほしいと言った意見書を提出することは出来る。要望が叶うかについては行政の対応  
次第になるが、現在制限されていることでも要望することは出来る。

これらを踏まえて、次に何をするかを決定してほしい。講師を呼ぶとなった場合、  
人選や日程調整等もあるため、次回の地域協議会に呼ぶことは時間的に難しい。

**【飯野会長】**

次回の地域協議会で実施可能なものとしては市の担当課からの説明は可能か。

**【田中主事】**

担当課の都合次第だが、可能である。

**【青木副会長】**

三郷区との意見交換会はいつになるのか。

**【田中主事】**

1月か2月になると思う。

また、教育総務課より高士小学校についての報告を地域協議会内で行いたいとの話が来ている。次回開催での報告を予定しているが、おそらく報告のみのため、協議の時間は確保できる。

**【飯野会長】**

少しでも踏み出さなければ状況は変わらない。次回の協議会では市の担当課より出向いてもらい説明を受けてはどうかと考えている。賛成の委員は挙手願う。

(7人挙手)

**【田中主事】**

事務局にて担当課と調整する。

**【飯野会長】**

以上で、次第3議題「(2) 自主的審議事項について」を終了する。

次に、次第4「その他」、次回の開催日について入る。

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：12月18日（火）午後6時30分から 高士地区公民館 中会議室

**【青木副会長】**

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。